

1984年 3月 6日

ミスター シルヴァン ブッシュ
20西46街
ニューヨーク、ニューヨーク10036

親愛なるシルヴァン

私も驚き落胆しています。

貴方の1984年2月17日の手紙は私の手元にあります。1984年2月8日の手紙で私はいくつかの論点を提出しましたが、貴方の返事は殆ど全面的にタウンハウス購入と、356東69街の不動産、(この所有権は現在禅教団にあって栄道老師にはありません)に関する事ばかりでした。

此の内容の一部は私を困惑させることなので、この点を指摘させてください。1983年12月21日付、禅教団理事宛(私は此の手紙の複写を貴方もご覧になったと推量します)栄道老師の指摘するところによれば、16万ドルで購入するタウンハウスは栄道老師自身の所有物になること、禅教団はこの額を栄道老師へ支払うこと、将来このタウンハウスが販売された場合、16万ドルはカールソン財団へ返済し、残額は遺族への恩給となること。

お許し願って問題点へ直行しますと、貴方の手紙によれば禅教団は老師がタウンハウスを購入する為の16万ドルを老師へ支払うとのこと、又“登録される所有権を持つ人の名は老師とやすこで、実際の法定の公文書にはこの所有者は禅教団”となります。老師の手紙は彼が所有者となり、この不動産が売れた時点で16万ドルをこえた額は遺族(彼の妻)への恩給となると指示されています。老師の手紙も貴方の手紙も共に老師と彼の妻の名が此の不動産の法的所有者として登録され、金は禅教団より支払われたとあります。

貴方は9月19日の老師によってつたえられた私との会話、つまり、私がタウンハウスを売ること、これにともなう一切の処理、そして此の結果老師と彼の妻は相当な利益を得ることになるという一連の取引に賛成したという報告を受けて、これを重用視(完全に信用して)おられるようです。9月19日は貴方もご存知のように、チェスター カールソンの忌日です。老師のペテンの記念日であってはならないのです。私は12月21日の手紙で彼が最終案として告げてきた計画は認可しません。

私は以下の通り、全面的立場を考慮して、現実的かつ公正な結論を進言します。

356東69街の売却が終了し、アパート購入も終了し、法定所有権が禅教団にあると登録されたら、売買に費やされた一切の費用を差し引き、老師へ16万ドル与え、残額は私にかえしてください。

1974年の初志を保つべく、どのように金を使うかは私が決定することで、勝つてに、カールソン財団を利用しないでください。さらに、現状において、禅教団はカールソンの名を、いかなる状況においても使わないでください。理事会からの返事を待っています。

真実にあなたの

ミセス チェスター F カールソン